

No.4
31 Jul. 2004

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

発行 NPO法人日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成16年7月31日

編集 NPO法人日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 九段会館6F(ニューギニア航空日本社内) TEL03-5216-3555 FAX03-5216-3556

安保理の椅子—PNGの大好意



2004年6月7日より毎日新聞朝刊第1面にて「平和立国の試練—第5部「名誉ある地位」とは」という特集が始まりました。その第1回に「(日本)安保理の椅子を求め奔走、パプア(ニューギニア)と折衝」という記事が掲載されました。これは約3年前のPNG政府との外交交渉にまつわる外交秘話の記事です。これには後にイラクで亡くなられた奥克彦さん(当時国連担当課長)のことも出ています。当時、半年間にわたり内々の折衝に当たられた当協会理事顧問の田中辰夫前大使のお話によると、

PNG政府が以前から獲得していた2004年の国連安全保障理事会の非常任理事国選挙への立候補資格を日本政府が譲ってもらうことに成功したのは、普段から2国間の官民にわたる関係が良いからで、だからこのような奇跡的なことができたのだそうです。その結果、本年秋に行われる同選挙で、いまや日本の当選は確実なものとなれ、国際場裏における日本の活躍が期待されています。

9月末に日本政府の重要賓客として昨年に続き、マイケル・ソマレ首相の訪日が予定されていますが、これにはこのようなPNG政府側の非常な好意に対するお礼の意味も込められているそうです。掲載されました記事は次の通りです。

01年5月8日。日本の新聞各紙に小さな記事が載った。「04年秋に行われる国連安保理非常任理事国の選挙に日本が立候補を表明」。先に登録していたパプアニューギニアが「財政上の理由」で立候補を撤回、日本の出馬を支持したため、と日本政府は説明していた。だが、このクールな説明とは裏腹に、日本は懸命に安保理の「椅子」を求めている。

「夢みたいですね。安保理への切符を譲ってもらえるなんて」。東京からパプアの日本大使館に到着した外務省の奥克彦・国連政策課長(当時)は開口一番、田中辰夫大使(当時)に言った。01年4月18日。後にイラクで武装勢力に襲われて死亡する奥氏は、この当時、外務省で国連対策の実務を担っていた。

田中氏は奥氏と一緒にパプア外務省に赴いた。奥氏が「日本は非常任理事国への立候補を望む」という趣旨の文書をロウマ審議官(当時)に提出。ロウマ氏は「立候補の資格を譲る」とする書面を日本側に渡し、日本がパプアに代わって非常任理事国(任期05~06年)になる方向が固まった。

安保理は5ヵ国(米露英仏中)の常任理事国と任期2年の非常任理事国10ヵ国で構成。

地域別に割り当てられる非常任理事国について、アジア地域では可能な限り候補を一本化するのが近年の傾向だ。冷戦後はアジア地域でも非常任理事国を希望する国が増え、将来の常任理事国候補とされる日本も、無風で選ばれるのは難しくなっている。パプアとの折衝は、書面交換の約2ヶ月前(2月23日)に始まった。田中氏はパプアのフレモン外相(当時)を朝食に招き、塩サケ

の和食を振る舞った後で、「日本は非常任理事国への立候補に関心がある」と切り出した。外相は「検討しましょう」と答えた。99年に政権が交代したパプアは巨額の財政赤字に苦しんでいた。96年に前政権が非常任理事国に名乗りを上げていたことは、外相も知らなかった。

数日後、フレモン外相はオーストラリアを訪問、各国の経済協力に感謝したが、それらの国々の中に日本の名は含まれなかった。日本は政府開発援助(ODA)に加え、53億円の財政支援を検討していただけに、田中氏はパプア政府に抗議。すると、3月12日にフレモン外相から手紙が届いた。「悪気があったわけではない」という弁解に続いて「わが国は非常任理事国の席は求めないつもりだ」と記されていた。

パプアとの書面交換を終えた奥氏は「パプアのラグビーチームを日本に呼んで親善試合をやりましょうか」と田中氏に語った。

だが、その陰で奥氏らは次の目標に向かっていった。日本が最後に非常任理事国を務めたのは97~98年。次の就任が05年なら丸6年の間隔が空く。日本は過去8回、ほぼ3~4年おきに非常任理事国になっていた。03~04年の非常任理事国に立候補したパキスタンに降りてもらおうか、立候補の順番を代わってもらえないか。日本側にはそんな思惑があったようだ。

01年10月、日本が98年の核実験に伴う対パキスタン制裁を解除したところ、ある国連大使経験者は奥氏から電話を受けた。「今がチャンスです。経済制裁を受けた国を安保理に迎えるのはいかなものか、という論陣を張れば、必ずうまくいきます」と奥氏は語ったという。そんな言葉が飛び出すほど、安保理への早期復帰に情熱を燃やしていたということだろう。

だが、パキスタンの態度は硬く、日本は説得を断念した。パキスタンが非常任理事国に当選した02年秋、奥氏は在英国日本大使館の参事官だった。その後、イラクに派遣され、03年11月、武装勢力の銃弾に倒れた。

「日本の方がふさわしい」

立候補問題—パプア外務次官語る

05~06年の安保理非常任理事国への立候補を辞退し、代わりに日本の立候補を支持したパプアニューギニア。同国のペブソソ外務次官に電話でインタビューした。

—日本に立候補の資格を譲った理由を教えてください。
「国連が創設され、安保理が設置された時期に比べ国際環境が激変している。日本は国際的に貢献できる大きな可能性がある」

—パプアも前政権下の96年に安保理へ入ろうとしたのでは？
「確かに立候補したが、まだパプアはそれほど発展していない。国連の中でも通常の持ち回りで担当するポストならやれると思うが、安保理となると日本の方が資格がある。どの国でも安保理の理事国を務まるわけではないと思う」

—パプアは財政上の問題から非常任理事国への立候補を辞退したとされている。

「確かにパプアには財政上の問題はあるし、日本は強いサポートをしてくれているが、それは関係ない。日本を支持したもう一つの主な理由は、日本がパプアと同じアジア太平洋地域の国だということだ。この地域では、日本ほど強い力を持つ国はほかになく、日本が一番ふさわしい」

藤岡町よりカラビ村へソフトボール用具が贈られました。

立山 博邦

私は、カナダの大学で人類学を専攻している大学院生で、東ニューブリテン州のガゼル半島北東部で暮らすトーライ族の文化・社会・歴史について博士論文を執筆するために、2002年4月からおよそ2年間、ココポ地区にあるカラビという村を生活の拠点にしながらフィールドワーク(現地調査)を行いました。

そのカラビ村に、今年5月、日本・パプアニューギニア協会のご協力の下、愛知県西加茂郡藤岡町よりソフトボール用具が寄贈されました。つきましては、協会会員の皆様とその経緯をお知らせするとともに、お礼を申しあげたいと思います。

このたびの寄贈はもともと、フィールドワークの傍ら、日頃お世話になっているカラビ村の人々に何かお礼ができないだろうかという私の個人的な発案から始まったものでした。そこで思いついたのが、ソフトボール用具の寄贈でした。

ソフトボールは、パプアニューギニアでは男女を問わず最も人気のあるスポーツの一つで、定期的に地方および全国レベルでトーナメントが催されています。

また、政府も、青少年の健全な育成のためにスポーツを促進させることは非常に重要であると認識しています。

カラビ村にもソフトボールチームがあり、彼らがプレイする度に観戦に行きました。しかし、そこで私がいつも感じていたことは、用具が不足しているということです。

試合をするチーム同士が、バット、グローブ、ヘルメットなどを交代で使うことはよくあります。キャッチャーがプロテクターを装着せずにプレイしている時、ヒヤッとする場面も何度か見ました。

また、バッターがグラウンド外にファールを打つと、ボールが戻ってくるまで試合が中断することもよくあります。こういったソフトボール用具は市販されているのですが、一般の村人にとって容易に手の出る金



筆者(立山)と固い握手の現地青年

額ではないのが実情です。ソフトボール用具を寄贈したいと思ったものの、私一人の力ではどうにもならないので、インターネット上で寄贈者を募ってみました。募り始めてからおよそ1年、それまで全く音沙汰がなく半ば諦めていたところに、寄贈に興味を持つという方から初めて連絡をいただきました。

それが藤岡町だったので。愛知県では2005年に国際博覧会「愛・地球博」が開催されることになっていますが、この時藤岡町は、パプアニューギニアのホストとして「一市町村一国フレンドシップ事業」の準備を進めておられるところで、この事業の一環としてカラビ村にソフトボール用具を寄贈したいということでした。

その後、日本・パプアニューギニア協会事務局長兼ニューギニア航空日本支社長の島田謙三氏を通じて、同協会より用具輸送の協力が得られて、今年5月16日にカラビ村で寄贈式が行われる運びとなったわけです。

寄贈式では、段ボール箱3個分の用具がカラビ村に手渡され、そのお礼として、カラビ村から藤岡町にトーライ族の伝統工芸品が3点贈呈されました。なお、寄贈式の様子は、地元のラジオ局によって2回に亘って放送されました。



このたびの寄贈は、日本・パプアニューギニア協会を含むたくさんの方々の協力を得て、当初想像もしていなかったほどの大きくそして大変意義のあるプロジェクトに発展いたしました。この場をお借りして、協会会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



日・パ親善試合を楽しみにしています

立山 博邦 プロフィール

1972年 熊本生まれ
1998年 ネブラスカ大学リンカン校(アメリカ)人類学部修士課程修了 現在、プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)人類学・社会学部博士課程に在籍し、トーライ族の「伝統」の生成と変容の歴史をテーマに博士論文を執筆中。

PNGがダイビングの賞を多数受賞しました!

世界でもっとも読者数の多いアメリカのダイビング雑誌「RODALES」が読者投票によるダイビング賞2004年を発表しました。なんとパプア・ニューギニアがトップを独占。まだまだ荒らされていない魅力いっぱいのPNGで、是非ダイビングを楽しんでください。



第1位独占

- * ダイビング目的地部門
- * 海洋生物部門
- * 透明度部門
- * もっとも健康的な海洋環境部門
- * マクロ生物部門
- * すすんだダイビングスタイル部門
- * 水中写真部門

第2位

- * WALLダイビング部門

トップ5に入賞

- * 価格部門

2004 Readers' Choice Awards

PAPUA NEW GUINEA

>First Place
Top Dive Destination
Top Marine Life
Top Visibility
Healthiest Marine Environment
Top Small Animals
Top Advanced Diving
Top Underwater Photography

>Second Place
Top Wall Diving

>Top Five
Top Value

SCUBA DIVING

NPO法人日本・パプアニューギニア協会 第1回総会開催

2004年5月18日、パレスビルにて第一回総会が開かれました。谷口誠会長のはじめの挨拶、山下徳夫名誉会長、鳩山邦夫先生、尾辻秀久先生のお言葉に始まり、伊藤公介日本・PNG友好議員連盟会長、狩野安先生のご挨拶、谷口誠会長の終わりの言葉で閉会となるまで、終始一貫なごやかに執り行われました。その後、場所を宴会場に移し、マイケル・マウエ大使のスピーチをもって懇親会が始まりました。

マウエ大使ご夫妻、バランパタズ公使ご夫妻がご出席して下さいましたので、懇親会は華やかなものとなり、また、立食だったため、会員同士の交流も活発に行われました。

当日の総会、懇親会で出されましたコーヒーは、当協会の法人会員であります(有)ユー・アンド・ユー様をご提供して下さいましたPNGコーヒーでした。

当日、ご紹介できなかった不手際に対しお詫びを申し上げますとともに、この場をかりてご紹介させていただきます。



谷口会長の挨拶



伊藤先生

平成16年度の新しい理事のメンバーが決まりました。今年度も張り切って参りますので、どうかよろしくお願ひいたします。

NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 役員一覧

- 名誉会長 山下 徳夫
(元運輸大臣、元衆議院議員、元日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)
- 名誉顧問 大河原 良雄(元駐米大使、財団法人世界平和研究所理事長)
- 顧問 日本・パプアニューギニア友好議員連盟の諸先生
[代表/伊藤 公介(衆議院議員、日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)]
堀江 正夫
(東部ニューギニア戦友会会長、元参議院議員、元日本・パプアニューギニア友好協会会長)
マイケル・マウエ 駐日パプアニューギニア特命全權大使
外務省大洋州課
- 会長 谷口 誠(元パプア・ニューギニア日本大使、元日本国国連大使)
- 副会長(理事) 松 裕満(協和海運株式会社 代表取締役社長)
- 副会長(理事) 鈴木 紀久代(新潟パプアニューギニア協会 事務局長)
- 理事顧問 田中 辰夫(前パプア・ニューギニア日本大使)
- 理事 長 宏行(オイスカインターナショナル 地域第3部部长)
- 理事 今井 雅啓(伊藤忠商事株式会社 機械カンパニー化学プラント部 部長)
- 理事 畑中 幸子(中部大学名誉教授、文化人類学者)
- 理事 原 晃(国際協力総合研修所)
- 理事 福島 正光(株式会社ピーエムコーポレーション)
- 理事 松山 清(南洋開発株式会社)
- 理事 石神 雅人(有限会社ユー・アンド・ユー)
- 理事 山邊 登(日本・パプアニューギニア旅行業協会会長)
- 理事 賀集イレーネ(アルゼンチン共和国弁護士)
- 監事 土屋 耕太郎(土屋法律事務所)
- 事務局長(理事) 島田 謙三(ニューギニア航空 日本支社長)



田中前大使と総会参加者



和気あいのパーティー会場

Interview with Mr. Shota Katabuchi, Volunteer of JICA at Goroka, Papua New Guinea by Irene Gashu

ゴロカで活躍中の青年海外協力隊員 片渕 将太さんへのインタビュー

インタビュアー / Irene GASHU (賀集イレーネ 当協会理事)



片渕将太さん



ゴロカショーに参加した片渕さん

イレーネ パプアニューギニアに来られて、どの位たちましたか？

片 渕 1年ちょっとです。

イレーネ どういうお仕事をされているのですか？

片 渕 稲作栽培の普及です。この国も米は食べているのですが、全て輸入米です。輸入されているのがオーストラリアの古米で年間140万トン。ですから大金を使っていることになります。ずっとオーストラリアの植民地でしたから、PNGではお米はできないと洗脳されてきたのです。オーストラリアは輸出先としてPNGを確保したいから、本当はPNGでもお米はできるのに、できないと言い続けてきました。

でも最近では「PNGでもお米はとれる」ということが広まりつつあります。

イレーネ オーストラリアから輸入されるお米は高く売られているのですか？

片 渕 いいえ、そんなに高くはないですね。やっぱり、オーストラリアは大規模農業をしていますから、PNG人が自分で作ってもそれより低くは設定できません。それにお米も古いですし…でも自分で作れるものは自

分で作ったほうが良いです。

イレーネ 古いお米を食べるより新しいものを食べたほうがいいですね。いくつかの村で活動されているのですか？

片 渕 そうですね。ベースになるのは1ヶ所ですが、そこに学校を作って、農民を呼んで、米の作り方を教えています。我々が色々回って行くよりも良いのです。結局、回って行くと、我々が教えることになってしまいます。

日本人は外からの人ですからね。僕らはやっぱりこちらの人にも教える役をしてもらいたいと考えています。「僕らはいつまでも居るんじゃない」と「あなた達が自分で教えて、いろんなことをこれからやっていかなければならないんだよ」と。

僕らの活動期間は2年ですから。その間に教えられる人が育ってくれて、自分達で全部やってくれないとプロジェクトは続いていかないと。それがJICAの基本なんです。

イレーネ ちょっと話が変わりますが、PNGは治安が悪いという評判なんですけれど、それについてどう思いますか？

片 渕 自分さえ気をつけていれば、ぜんぜんそんなことはないです。色々被害に会う人も多いですけど、不注意だった場合が多いようです。普通の常識的なことをしていれば、そんな危険な目に遭うことはないですね。変な事件に巻き込まれたこともないです。

イレーネ 特別PNGが悪いような変な宣伝がありますが。

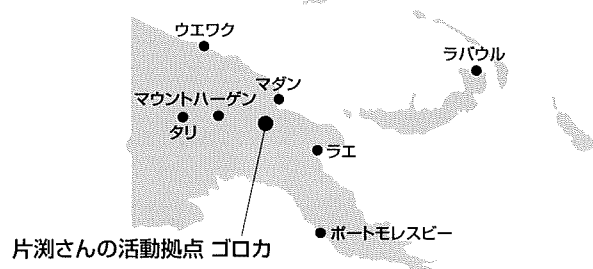
片 渕 一回悪いイメージがついてしまうと、そうなんです。実際、今ここには女性隊員はいませんが、一回JICAでそういうイメージがつくとですね、「ここは危険なところ」となってしまうのです。

イレーネ PNG人とは何語でお話しているのですか？

片 渕 ピジン語と英語です。事務所では英語をいっぱい使い

イレーネ ます。村人となると、ピジン語しか通じません。
 片 瀧 ピジン語ってどんな言葉ですか？
 片 瀧 そうですね、ピジン語は話され始めて100年位の比較的新しい言葉です。語彙も英語の言葉が多いし、語彙数だって1000か2000くらいしかないのです。発音は日本語寄りです。
 イレーネ 例えば、「私は日本人です」って、ピジン語で何て言うんですか？
 片 瀧 「ミー、ジャパニーズ」です。「ミー」が「私」で「ジャパニーズ」が「日本人」です。
 イレーネ PNGと日本との関係はどう思いますか？
 片 瀧 PNGでは、日本はいい国だと思われています。日本は様々な援助をしてくれていますから。戦争の話は時々現地の人から聞いたりします。「もし日本がオーストラリアに勝っていたら、こんなことにはなっていないかっただろう」とか。
 イレーネ もっと良くなっていたということですか？
 片 瀧 そうです。色々知っている人は「日本が占領していた韓国は今はずごく発展しているじゃないか」とか「オーストラリアは他の国を発展させた例がないじゃないか」とか言っています。日本に対してはとても親日的ですよ。日本の総理大臣も時々来ているみたいです。今の首相、ソマレさんも日本とは様々な面で関わりがあるらしいです。色々期待されている面も多いらしいですけどね。
 イレーネ 現地の人って働き者ですか？
 片 瀧 ええ、農民は男性も女性も仕事を分担してやっていますから、すごい働き者です。
 イレーネ 片瀧さんはこの国に来て良かったと思っていっぱいいますか？

片 瀧 そうですね。かなり幸運ですね。恵まれた状況にあるというか、危機的な状況がない、危機感がないというか。飢えていないというのが一番の理由ですね。
 イレーネ スラム街はありますか？
 片 瀧 全然ないです。物乞いもいませんし、途上国にしては素晴らしいと思います。食べものがあるんですね、家族意識が強いというか、親類の絆が強いというか。親戚で食べられない人がいると、皆で助け合うんです。それがいい面でもあり、悪い面でもあるんですけど。それを「ワントク」といいます。例えば、一人が職を得ていたら、そこはその親類で固められてしまうんです。政府関係でもそういうことが蔓延していて公平感が少ないです。



片瀧さんの活動拠点 ゴロカ

イレーネ では、最後に、日本・PNG協会の会員がこれを読むと思いますので、何か言いたいことはありますか？
 片 瀧 そうですね。PNGは住んでみるといいところですよ。それにやっぱり日本より広いので、色々なところへ行けますから、退屈はしないと思います。ゴロカは観光用の何かがあるというところではないので、むしろ人が観光資源になっています。
 イレーネ ありがとうございます。

(このインタビューは2003年9月25日に行われました。)

プローサ農園に戦闘機が.....

私ども(有)ユー・アンド・ユーは、2004年5月22日より29日まで、現地のコーヒー農園の視察と地元の方々との友好促進のため、ゴロカの東南130Km奥に位置しますプローサ農園を訪れました。農園視察後、東ハイランド州マルコム・スミス・ケラ知事、プローサの長老の方より貴重なお話をうかがいました。

「プローサは第二次世界大戦中、幸いにも激戦地ではなかった。しかし日本軍の戦闘機が森の中に墜落し、二人の日本兵は大怪我をした。この日本兵たちは村人たちから手厚い看護を受け、また連合軍からも護ってもらい、無事、カインツまで逃がしてもらった。」戦争以来、ここに足を運んだ日本人は、我々が初めてだったようです。それを考えると、我々は何らかの形でこの情報を

発信しなければいけないと思い、「ごらくちょう」を通して皆様にお伝えしようと考えた次第です。この件について何かご存知の方は、下記または当協会までご連絡下さい。
 (有)ユー・アンド・ユー
 堀江鉄雄/萩原透/石神雅人
 〒167-0042 東京都杉並区西荻北1-9-14
 TEL03-3397-1157
 FAX03-3397-1169

事務局からのお知らせ

車椅子をPNGに寄付

昨年末、東京田無けやきロータリークラブで「PNGへ日本・PNG協会を通して車椅子を寄付したい」という要望がもちあがりました。約20台の車椅子を当協会会員でありますニューギニア航空様、協和海運株式会社様のご協力のもと、今秋には送られる予定です。現地の送り先は、在PNG日本大使館の協力で選定されることになっております。贈呈式など今後の情報はおってご報告いたします。

ソマレ首相来日

PNGマイケル・ソマレ首相が2004年9月27-30日に来日される予定です。9月16日のPNG独立記念日とからめて歓迎パーティを企画しております。日時などの詳細はおってご連絡いたします。

上野動物園にPNGの鳥、極楽鳥を見に行こう!

当協会では、2004年10月16日(雨天の場合は翌日)に上野動物園へ極楽鳥、フクロモモンガを見に行くツアーを企画中です。詳細は後日、ご案内いたします。お楽しみに!

Gashuさん、おめでとう!

当協会理事でいらっしゃるIrene GASHUさんの「カソワリ」の写真が、隔月刊フォトステージ7-8月号No.46の表紙に採用されました。本誌は東京、大阪のフォトサロンにおいてありますので、ぜひ皆様ご覧ください。

編集後記

今回は数人の方から大作の記事をいただきました。スペースの都合上、短くしていただいた方もいらっしゃいます。この場をかりて、ご協力に感謝申し上げますとともに今後ともどうかよろしく願います。(佐藤直子)

NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
 年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円
 会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
 *会員数 2004年6月末 法人会員/11 個人会員/79

口座記号 / 番号 00140-2-277582
 加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会
 問合せ先 / NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 事務局
 〒102-0074
 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
 (ニューギニア航空 日本支社内)
 電話:03-5216-3555
 E-mail:info@air-niugini.co.jp